

教育委員会・学校における 活用事例

市町村教育委員会による全国学力・学習状況調査の結果公表・分析事例1

大阪府寝屋川市

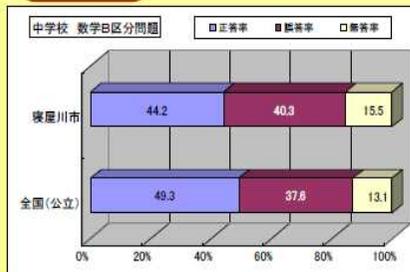
- ・全国や県の状況と比較
- ・レーダーチャートを用いて、領域・観点・問題形式別に分析

寝屋川市 中学校数学 B区分問題（「活用」に関する問題）

平成24年度

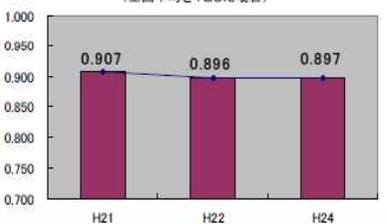
全国学力・学習状況調査
学力調査結果報告

正答率比較 全国（公立）との差が縮まり、改善傾向である



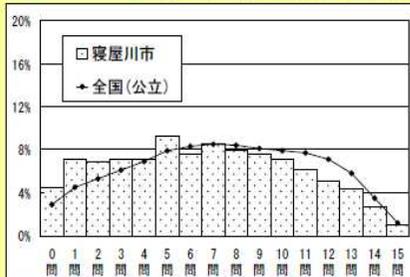
- ◆全国（公立）との差は縮まってきているが、寝屋川市の平均正答率は44.2%であり、全国（公立）よりも4.9%下回る結果となっている。
- ◆無答率は、15.5%であり、全国（公立）よりも2.4%高い状況である。

中学校 数学B区分正答率対全国経年比較（全国平均を1とした場合）



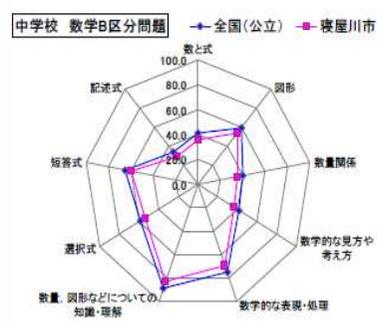
- 平均正答率の全国（公立）比は、横ばい傾向にある
- ◆全国（公立）の平均正答率を1とした場合の寝屋川市の平均正答率の比で比較すると、横ばい傾向にあり、継続した取り組みが必要である。

正答率分布 正答率分布の様子は、全国（公立）に比べて低位層が多く、中上位層が少ない傾向である



- ◆B問題は15問出題されているが、全体的に正答率が全国（公立）よりも下回っており、正答率の差が5%以上の問題は8問あった。
- ◆全国（公立）に比べ、学力低位層が多く、自分の考えや解答について「表現する」「説明する」活動、いわゆる言語活動の充実が求められる。

領域・観点・問題形式別 領域・観点・問題形式別の状況は、全国（公立）と同傾向にある



- ◆レーダーチャートの描くラインは、全国（公立）と同傾向を示している。
- ◆全国（公立）との正答率の差が5%以上あった設問の数を領域別に見ると、「数と式」では4問中2問、「図形」では7問中5問、「数量関係」では4問中1問だった。
- ◆正答率の差が、全国（公立）と最も大きかったのは、大問2（2）で、その差は7.3%あった。

課題がみられた設問

【「数と式」領域より】

問題(1)：(2)の活用(4)を求めよ。

解答(1)：(1)の活用(4)を求めよ。

問題(2)：(1)の活用(4)を求めよ。

解答(2)：(1)の活用(4)を求めよ。

【結果】

正答率(2)
寝屋川市 48.0%
(全国 55.3%)
(大阪府 49.4%)

無答率
寝屋川市 30.4%
(全国 24.9%)
(大阪府 32.0%)

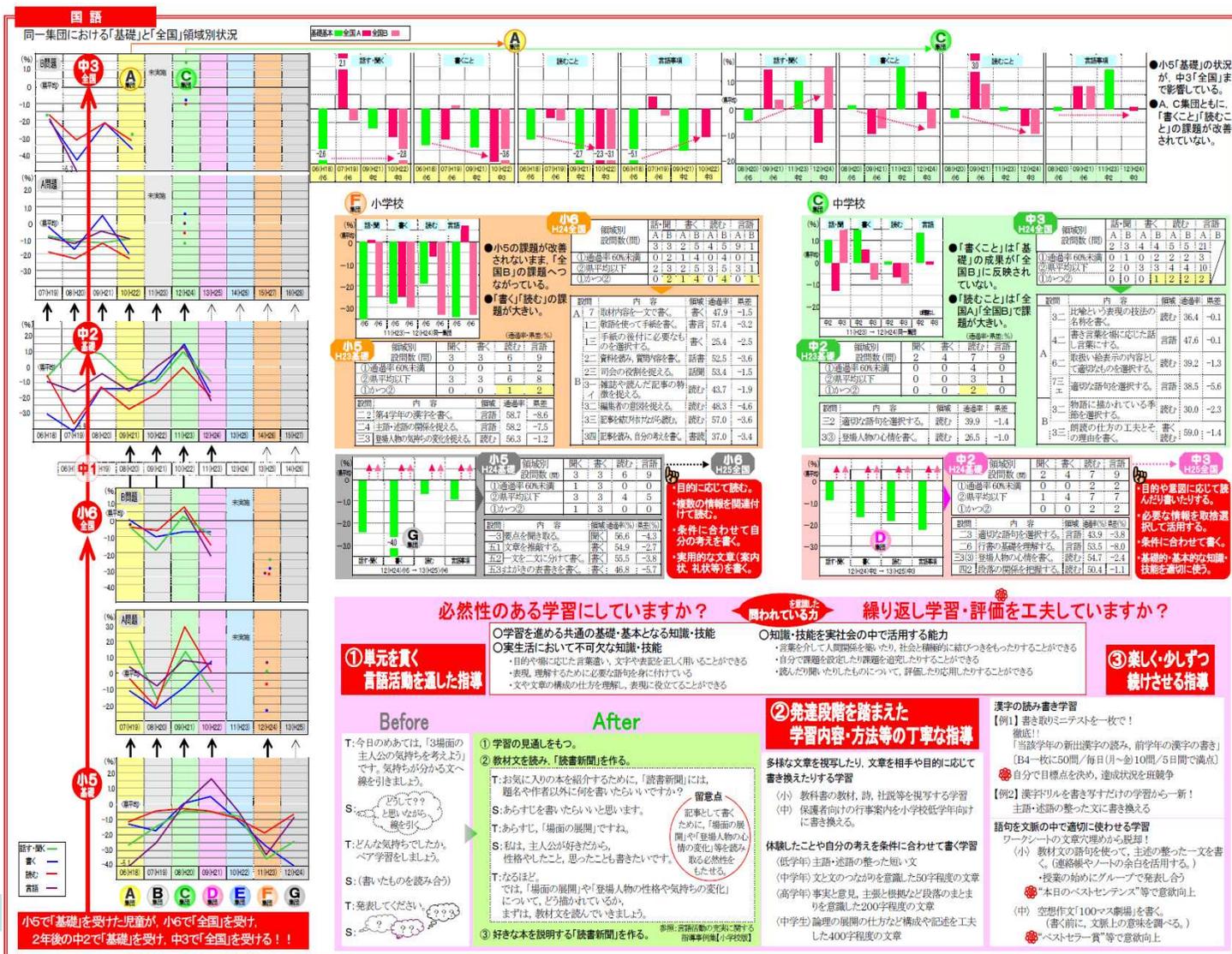
※(1)(2)ともに、大阪府よりも無答率は低いものの、正答率は下回っている。特に(2)においては正答率の差が最も大きい問題である。

市町村教育委員会による全国学力・学習状況

調査の結果公表・分析事例2

広島県福山市

同一集団の児童生徒が小5及び中2で広島県独自の「基礎・基本」定着状況調査を受け、小6及び中3で全国学力・学習状況調査を受けることで、学力状況を追跡的に調査



学校における全国学力・学習状況調査の活用事例1

広島県三原市立羽和泉小学校、八幡小学校

【全国学力・学習状況調査から明らかとなった学校の状況】

- ・算数B問題において式の根拠や対象を明らかにし、図や表との関連付けて説明することが苦手である。
- ・予習・自主学習が充実していない。

【結果を活用した取組例】

- ・説明する授業を基に作成した授業ノートを活用し、家庭学習でも「説明する」ための課題に取り組みさせる。
- ・振り返り表を用いて、家庭学習の計画を立てるとともに、自分が行った家庭学習について振り返りを行わせる。

【成果】

資料を活用した根拠ある説明をする力が向上し、家庭学習習慣が定着傾向にある。

授業ノート

課題 し字型の立体の体積を工夫して求めよう。

問題

① ここが、あると考える。
② たて×横×高さを
する。
A 800 cm³

③ ①の答えと ②の答えを
く。

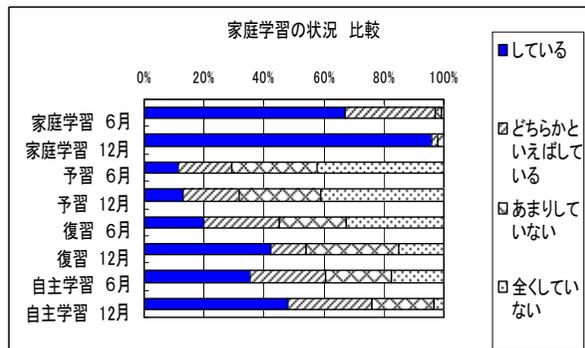
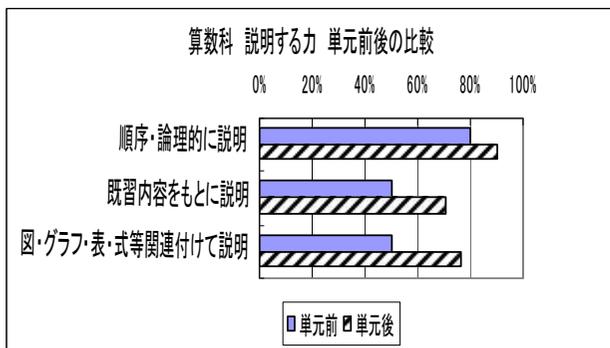
振り返り表 わくわくゴールテンウィークふりかえり

☆一日60分以上学習しましょう。☆毎日時間を決めて読書をしなさい。☆テレビ、ゲーム、イ

	4月29日(木)	4月30日(金)	5月1日(土)	5月2日(日)	5月3日(日)
家庭学習	62分	60分	67分	70分	61分
読書	15分	30分	30分	40分	30分
テレビ、ゲームなど	120分	100分	120分	120分	120分
ふりかえり	読書をもっとふやした方がいい。	テレビ、ゲームなどが少なくなったのでよかった。	家庭学習が増えてよかった。	家庭学習、読書が増えたよかったです。	テレビ、ゲームが3時間のぞもどへせるように
お家の人から	本読書をもっと増やしてほしい。	日記を書いていた。	テレビの時間を考えながら見ていました。	わかりやすく勉強していました。	毎日、テレビを見ています。

○毎日、記録して、5月6日に担任の先生に出しなさい。

名前 3



学校における全国学力・学習状況調査の活用事例2

新潟県見附市内の小中12校

【全国学力・学習状況調査から明らかとなった学校の状況】

- ・学力の層に二極化の傾向があること
- ・学ぶ意欲が高まっていないこと

【結果を活用した取組例】

- ・家庭学習の方法や内容を子どもに知らせる家庭学習ガイドブックを小中学校別に作成。
- ・校時表の工夫による個別指導の時間の設定や大学生によるスタディサポート。
- ・読書活動の充実。
(子どもの本100冊運動の推進、朝読書等)
- ・大学の先生の専門性を生かした出張授業。

【成果】

- ・週4日以上家庭学習する児童生徒が増加。
(21年度:80% → 22年度:88%)
- ・週4日以上学校以外で読書する児童生徒の割合が増加。
(21年度:37% → 22年度:41%)
- ・教員の授業改善(教員の自己評価結果が向上)。

